

「学びの多様化学校」で不登校者の居場所を！ ～一人も取り残さない学校づくりを八王子から増やそう～

“School for diverse learning” ; Let’ s create a place for truants!
～Building schools that leave no one behind in Hachioji～

グループ名：ハイビスカス
学生氏名：深谷 麗, 福永 可奈子
指導教員 青野 健作

創価女子短期大学 国際ビジネス学科 青野ゼミナール

キーワード：教育, ジェンダー, SDGs, 不登校, 多様性

1. はじめに

2022 年の日本では、小中学校の不登校者が過去最多の約 30 万人となり、児童生徒の不登校者・自殺者が増え続けている（図 1）。今後、多様な背景を持つ子供たちが安心して学べる社会を目指し、誰もが平等に、学校に通いやすい居場所を設けることが益々必要になる。現在、「学びの多様化学校」が全国に 24 カ所存在する。「学びの多様化学校」とは、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成した学校であり（「不登校特例校」という名称が 2023 年 8 月 31 日に改名）、フリースクールとは異なって、卒業資格が得られる。不登校生徒に配慮した画期的な取り組みであるが、増え続ける不登校者数に対して、「学びの多様化学校」の数が追いついていない現状がある。



(図 1) 年度ごとの不登校者数

2. 現状分析

多様化した現代において、下記の通り、不登校の原因も多様化している。

(1) ジェンダー問題

ジェンダー問題が理由で「学校にいきたくない」と感じた 10 代は、不登校経験者全体の半数以上に至る。ジェンダーの悩みを抱えた児童生徒が、中高生になって不登校を経験する数が増えている。つまり、LGBTQ に該当する児童生徒の多くが不登校を経験する傾向にある。そして、LGBTQ の 48%が自殺念慮、14%が自殺未遂を過去 1 年で経験している。

(2) 発達障害（グレーゾーン）の問題

「グレーゾーン」とは、発達障害の傾向がありながら、その特性がいくつか見られるものの、診断基準を全て満たしているわけではなく、確定診断ができない状態をいう。例えば、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHA（注意欠如・多動症）、LD（学習障害）などの発達障害の特性の一部を持つ人が当てはまる。その人たちは、クラスの中で「生きづらさ」を感じ、周囲に馴染めず居場所を見つけられない悩みを抱える。

(3) 心身症の問題

心身症をきっかけに不登校になる例として、起立性調節障害が挙げられる。不登校者の中で3~4割がこの病気を伴っているとも言われている。子どもたちが通いやすいように、授業開始時間に配慮した多様化学校を作ることが改善点になり得る。

(4) 八王子での学び

八王子市には、八王子市立高尾山学園という唯一の学びの多様化学校がある。当時の八王子市長が、不登校児童生徒の多さに危機感を抱いたことをきっかけに、2004年に小中一貫校として新設した。校長を務める黒沢正明氏は、「本校は、不登校の子どもたちが家から出て人と関わり、基礎学力と社会性が獲得できるように設立されました。(中略)まずは学校が安心・安全で、人との関わりや体験が楽しいと思えることを大切にしています」と語っている。そのような「柔軟な教育課程」を実現した結果、登校率約70%、進学率95%を超えた。

3. 提案内容

上記現状分析を踏まえて、以下の提案をする。

- ① 概要：現状分析(4)で既述した通り、高尾山学園のような学びの多様化学校を八王子市に更に増やすことを提案する。具体的には、空き店舗や廃校などを多様化学校として使用する。
- ② 授業料：特例校の規定に準じる。
- ③ 宣伝方法：現代のニーズに合わせて、SNS (Instagram, X, Youtube, TikTok等)を活用する。また、ポスターを制作し、市などの掲示板・ホームページ、広報誌などで掲載し、認知度を高める。

4. 提案の効果

本提案を通じて、不登校者・自殺者の減少に繋がる。また、八王子市がSDGsを推進する都市として、誰も置き去りにしないまちづくりにも貢献する。具体的には、SDG4「質の高い教育をみんなに」、SDG5「ジェンダー平等を実現しよう」、SDG10「人や国の不平等をなくそう」、SDG10「住み続けられるまちづ

くりを」、SDG16「平和と公正をすべての人に」に貢献できる。さらに、不登校の子どもを持つ保護者同士のコミュニティの場ができる。フリースクールとは異なって、不登校生徒にも卒業資格が得られ、将来への進路が開かれる。

5. おわりに

学びの多様化学校を増設することで、個々の不登校者たちに合ったサポートができ、社会性・知識・資格などの観点で、子どもの将来の準備を蓄えられるようになる。同じような境遇を持つ子どもたちが同じ場所で学ぶことで、自分らしく過ごせる居場所を見つけられ、協調性も高められるのではないだろうか。

教育水準が世界一のフィンランドでは、少人数学習や個人学習によるきめ細やかな個別支援が積極的に進められている。極めて高い学力を育てることよりも、低学力層の底上げを重視する考え方が世界一の学力に貢献している。そのような教育への理想と比較して、今日の日本の教育は課題が多い。校則や偏見に縛り付けられた環境の中で勉強に励むのではなく、多様化学校を模範とした「個性を尊重した環境の中で過ごしながら勉学に挑戦する教育」を目指したまちづくりが求められる。

6. 参考文献

小中学生の不登校、過去最多の24万4,940人

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20221027-0YT1T50118/>

新通称は「学びの多様化学校」過去最多、全国30万人の不登校児童

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/274009>

10代LGBTQの48%が自殺念慮、14%が自殺未遂を過去1年で経験

<https://prtnews.jp/main/html/rd/p/000000031.000047512.html>

発達障害・グレーゾーンの子どもの不登校になったら？

<https://life.litalico.jp/hattatsu/mailmag/113/>